

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府京都市山科区栗柄野狐塚5番地1						
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 ファインシンター 代表取締役社長 水野 豊						
事業者の主たる業種	地球温暖化対策製品の自動車部品製造業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	平成20年4月～平成23年3月						
基本方針	エネルギー消費効率の改善、廃棄物（廃製品含む）排出量の削減、当事業所の全部門でのマネジメントシステムを有効に活用し、3%以上のCO2排出量の削減を目指す。						
推進体制	環境管理責任者（取締役）をISO推進委員長とし、省エネルギー部会と同調し、実施計画の策定及び月例の進捗管理を図り推進する。						
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001環境マネジメントシステム					
	適用範囲	当社サイトにおける製品の生産・販売活動					
	取得年月日	1999年12月10日					
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	20	工場製造部門	設備負荷による寄せ止め、シフト変更による深夜電力化、立上りロス削減のシフト変更、全社品質目標達成、				
	20	生産部門	トヨタ生産方式強化推進、在庫削減				
	20	開発・生技部門	新技術、新材料の低コスト化（軽量、工短）、新技法の開発拡大				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）	
	A 事業所等排出区分	8,296.0 t	8,038.0 t	-3.1%	7,171.9 t	-13.5%	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	*1 8,296.0 t	*2 8,038.0 t	-3.1%	*3 7,171.9 t	-13.5%	
	実績に対する自己評価	昨年に引き続きESCOサービスとの共同省エネ改善を推進し、個々の成果を上げることが出来た。一方世界不況の中、大幅生産減に対し緊急生産体制の変更を図り対応したが、効果的なエネルギー効率までは追従できなかった。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）
	山科工場	二酸化炭素換算 生産重量（t）	2.410 t-CO2/t	2.330 t-CO2/t	-3.3%	2.727 t-CO2/t	13.2%
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
	実績に対する自己評価	世界的不況により生産量が激減した。一方個別省エネ改善は昨年同様推進して来た。むしろ生産減少した今年度の原単位維持活動が重要である。					
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）			
		取組量等		取組量等			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	t	
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	t	
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	t	
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	t	
	削減量等合計	*4		*5			
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	*1 8,296.0 t	(19)-(22) 8,038.0 t	-3.1%	(19)-(20) 7,171.9 t	-13.5%		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	山科美化推進協議会への参画及び2回/年の河川清掃活動						
特記事項	・新規購入、機器修繕時にはすべてノンフロン代替化実施。 ・過去の省エネ改善実績 電気使用量（T-kwh） H13：22,367 → H19：19,065 [効果：-14.8%削減] ⇒H20：16,355 [効果：14.2%削減] ⇒H22：18,493 [予想効果：17.3%削減]						

注 1 該当する欄には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方レ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者について1使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。